

2023年度 高等学院同窓会学術研究奨励金
研究成果報告書概要（WEB公開用）

高等学院長
高等学院同窓会理事長 殿

研究代表者氏名 [二本木葦智]

学年・組・番号 [3年 I組 18番]

研究課題： 気候危機時代の社会運動参加
—Fridays For Futureの若者への調査から—
(英文) Social Movement Participation in the Era of the Climate Crisis
—from the survey for the youth in Fridays For Future—

研究概要：

(研究課題を選んだ動機、達成するための計画・目的・方法等について200～400字で記入してください)

幼少期に反原発運動や安保関連法反対運動を新聞で見えており、社会運動について一定の関心がある。現在に至るまでである。また、2022年7月より私は日本国内のFridays For Future関連の運動に関わっており、その活動の中で、現代社会において、かつてと比べ社会運動が停滞しているという問題意識をもつようになった。そのため本研究では同窓会学術研究奨励金を利用し、運動が衰退する中でも気候危機問題について社会運動の方面から何らかの行動を起こそうとする若者を調査することで、社会運動の価値を再考した。

本研究では、気候危機問題に対して社会運動を行うことで解決を目指す全国各地に住む若者17人にライフストーリーの手法を用いて聞き取りを行い、Fridays For Future関連の運動に参加するようになった動機及びその過程について調査を行った。また、調査はZOOMを用いたオンラインと対面とをそれぞれ1回およそ1～3時間程度、計2回行った。うち2名は都合が悪くオンラインでの2回の聞き取りとなった。なお、対面での調査では、インタビューの住む地域まで私が直接赴き現地で直接お話を伺った。同窓会学術研究奨励金はその際の交通費として利用させていただいた。

研究成果：

(研究の結果概要、結果に対するフィードバックや感想等について200～400字で記入してください)

気候運動に参加している若者一人一人からインタビューを行うことで、現代日本の気候運動参加について一定の傾向を見出すことができた。主に2種類の傾向があり、一つは、開発によって環境破壊が行われて自然が失われることや動物の住処が奪われたりすることなどに対する危惧から活動するという、道徳、倫理的な観点からの動機である。もう一つは、開発によって気候変動が進み、気温上昇やそれに伴う災害の増加、深刻化などに対するリスク不安から活動を始めるという動機である。本研究では同窓会学術研究奨励金により、様々なバックグラウンドを持つ若い活動家と直接会って、深く話を聞くという貴重な経験ができた。この経験より、多様化が進む現代社会において他者の話を丁寧に聞き、理解することが重要となるということを再認識させられることとなった。

研究者：(以下の、代表者・分担者は学年・組・氏名を明記する)

研究代表者 二本木葦智

研究分担者

担当教諭 柿沼亮介

(受給額： 30,000円)

※研究課題、研究概要、研究成果、研究代表者名がWEBページ上で公開されることに同意します
(次のページに続きます)

研究成果写真：

(研究過程がわかる写真や、研究結果がわかる写真などを数点貼り付けてください)

